



2026年6月期 期末決算説明資料

株式会社 WOLVES HAND

2026年8月





Contents

1. 2026年6月期 期末決算の概要
2. 当期の当社の取り組み及び翌期業績予想の概要
3. 各事業の概況
 - I. 動物病院ネットワーク事業
 - II. 医療衛生医療機器事業
 - III. バイオマテリアル事業
 - IV. メディカルデータソリューション事業
 - V. 研究開発受託事業



2026年6月期 決算の概要

1



2026年6月期 連結業績実績



- 売上高は前年同期比+12.7%増収、営業利益は前年同期比+23.9%の増益
- 2026年1月にリリースした見直し後の業績予想に対しても、売上高及び各段階利益ともに全て達成
- 既存病院のオーガニック成長による増収、前期にM&Aを実施した(株)バハティーの通期寄与、及び2026/6期にM&Aを実施した飛鳥メディカル(株)、(株)See、カルテック(株)の寄与により増収
- 営業利益については、グループ経営による事業効率化やコストシナジー、収益性向上の為の診療価格の見直しや医療設備の拡充等の施策効果が早期に顕在化した結果、(株)SeeのM&Aに伴う一時的な費用43百万円や人件費の上昇をカバーし増益

(単位：百万円)

	2025年6月期 実績	2026年6月期 業績予想	2026年6月期 実績	2025年6月期実績比較		2026年6月期業績予想比較		主な増減理由
				増減額	増減率	増減額	増減率	
売上高	5,463	6,150	6,155	+692	+12.7%	+5	+0.1%	既存病院の増収、2025/6期にM&Aを実施した(株)バハティーの通期寄与、及び2026/6期にM&Aを実施した飛鳥メディカル(株)、(株)See、カルテック(株)の寄与により増収
営業利益	909	1,100	1,127	+218	+23.9%	+27	+2.5%	M&Aに伴う一時的な費用や人件費上昇の影響があったものの、グループ経営による事業効率化およびコストシナジー、診療価格の見直し等の施策効果が寄与
経常利益	908	1,100	1,131	+223	+24.6%	+31	+2.8%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	593	840	939	+346	+58.4%	+99	+11.8%	カルテック(株)のM&Aに伴う負ののれん発生益227百万円を特別利益で計上
EBITDA ※	1,259	1,450	1,511	+252	+20.0%	+61	+4.2%	
1株当たり当期純利益	79円34銭	111円80銭	124円88銭	45円54銭	+57.4%	13円08銭	+11.7%	

※EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん償却費

バランスシートの状況

- 飛鳥メディカル(株)および(株)Seeの株式取得、カルテック(株)の事業承継を自己資金で実施したことにより現預金は前期比減少
- 上場前LBOにかかる借入金は、金融機関との協議の上、**2025年12月にリファイナンスが完了**
- 自己資本比率は前期末から9.8%増加し**54.7%に上昇**しており、**財務健全性がさらに強化**されている

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	増減額	主な増減理由
流動資産	1,387	1,987	+600	
現預金	895	808	▲87	飛鳥メディカル(株)、(株)SeeのM&A、カルテック(株)の事業承継を自己資金で実施
売掛金	278	334	+56	
固定資産	4,662	4,780	+118	
建物及び構築物	849	807	▲42	
土地	1,624	1,597	▲27	
のれん	1,653	1,757	+104	
資産合計	6,049	6,768	+719	
流動負債	1,956	1,248	▲708	
1年内返済予定の長期借入金	1,154	447	▲707	リファイナンスによる期限の利益の長期化による減少
未払法人税等	225	275	+50	
固定負債	1,377	1,801	+424	
長期借入金	1,274	1,526	+252	リファイナンスによる期限の利益の長期化に伴う増加および約定返済による減少
負債合計	3,334	3,049	▲285	
純資産	2,715	3,718	+1,003	
負債・純資産合計	6,049	6,768	+719	
自己資本比率	44.9%	54.7%	+9.8%	



キャッシュ・フローの状況

- 営業CFは前期比+176百万円（18.5%増）増加。
- 2026年6月期の現金及び現金同等物の残高は、飛鳥メディカル(株)および(株)Seeの株式取得、カルテック(株)の事業承継等の積極投資を実施したことによる投資CFの増加の影響で前期末比▲87百万円

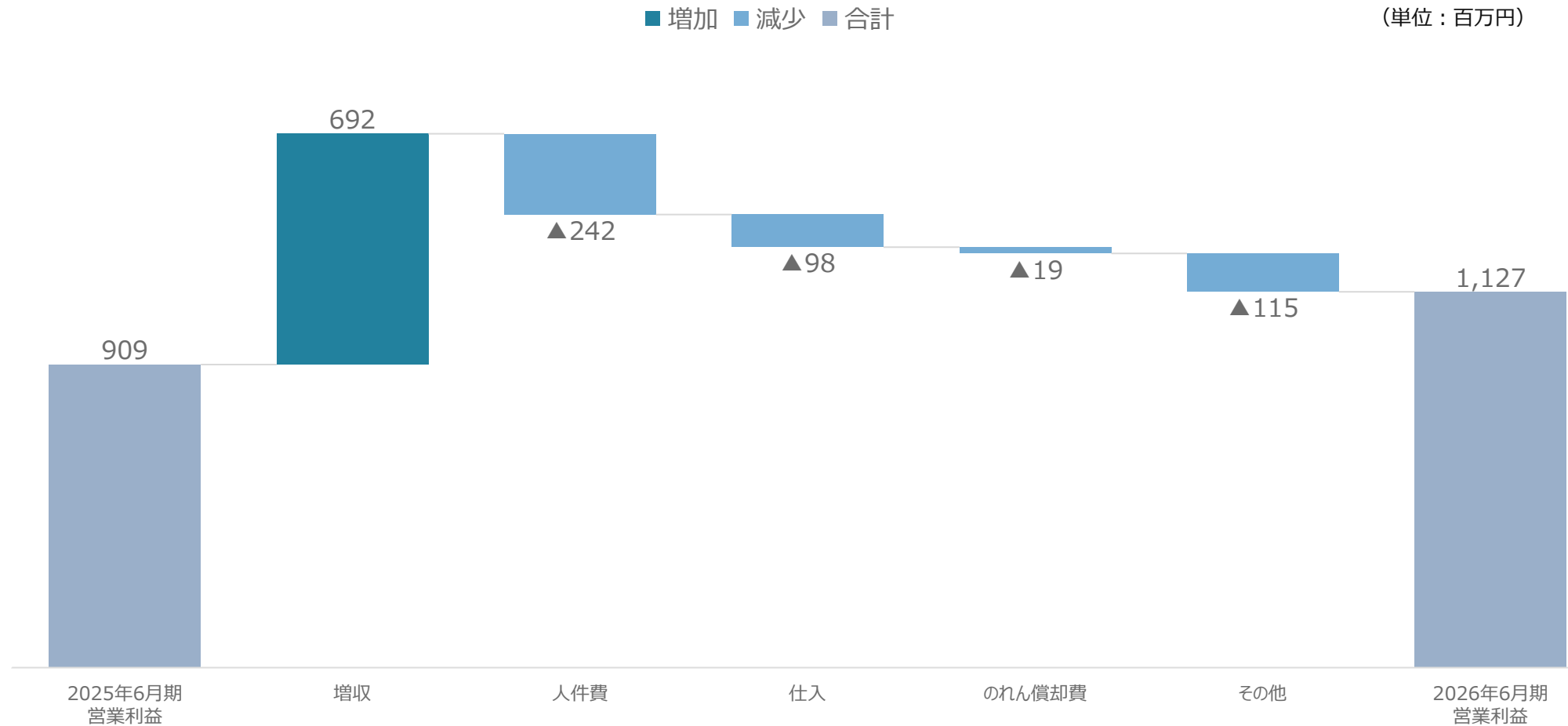
（単位：百万円）

	2025年6月期	2026年6月期	増減額	主な増減理由
営業活動によるCF	948	1,124	+176	税金等調整前当期純利益 前期： 907 当期：1,296 のれん償却費 前期： 162 当期： 181 法人税等の支払額 前期：▲247 当期：▲355
投資活動によるCF	▲ 388	▲ 697	▲309	有形固定資産の取得 前期：▲111 当期：▲189 子会社株式の取得 前期：▲303 当期：▲374
財務活動によるCF	▲ 575	▲ 514	+61	長借入による収入 前期： - 当期： 818 長期借入金の返済 前期：▲550 当期：▲1,272
現金及び現金同等物の増減額	▲ 15	▲ 86	▲71	
現金及び現金同等物の期末残高	895	808	▲87	

営業利益増減要因



- 売上高は既存病院のオーガニック成長による増収、前期にM&Aを実施した(株)バハティ어의通期寄与、及び2026/6期にM&Aを実施した飛鳥メディカル(株)、(株)See、カルテック(株)の寄与により増収
- (株)SeeのM&Aに伴う一時費用43百万円や人件費は増加するも、グループ経営による事業効率化やコストシナジー、収益性向上の為の診療価格の見直しや医療設備の拡充等の施策効果が早期に顕在化した結果、**営業利益は前年同期比+23.9%の増益**



売上高・営業利益 四半期推移

- 既存病院の増収やM&Aを実施した(株)バハティール、飛鳥メディカル(株)、(株)Seeの業績寄与によりQ o Qで増収・増益を達成
- 狂犬病ワクチンの接種やノミ・フィラリア薬等の購入が集中する3月から6月にかけて来院数が大幅に増加し繁忙期になる傾向があるため、四半期における業績は、4Qにおいて売上高及び営業利益が偏重傾向

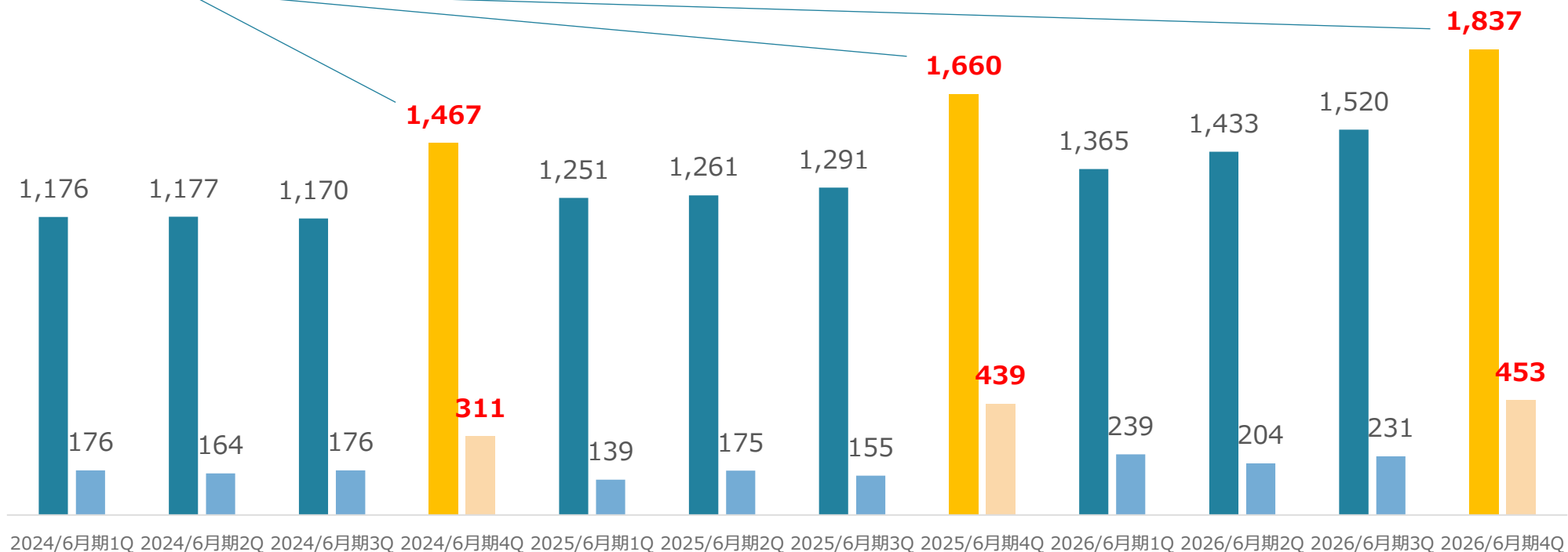


売上高・営業利益 四半期推移

ワクチン接種・ノミ・フィラリア薬購入等の影響で4Qに売上・利益が偏重傾向

■ 売上高 ■ 営業利益

(単位：百万円)



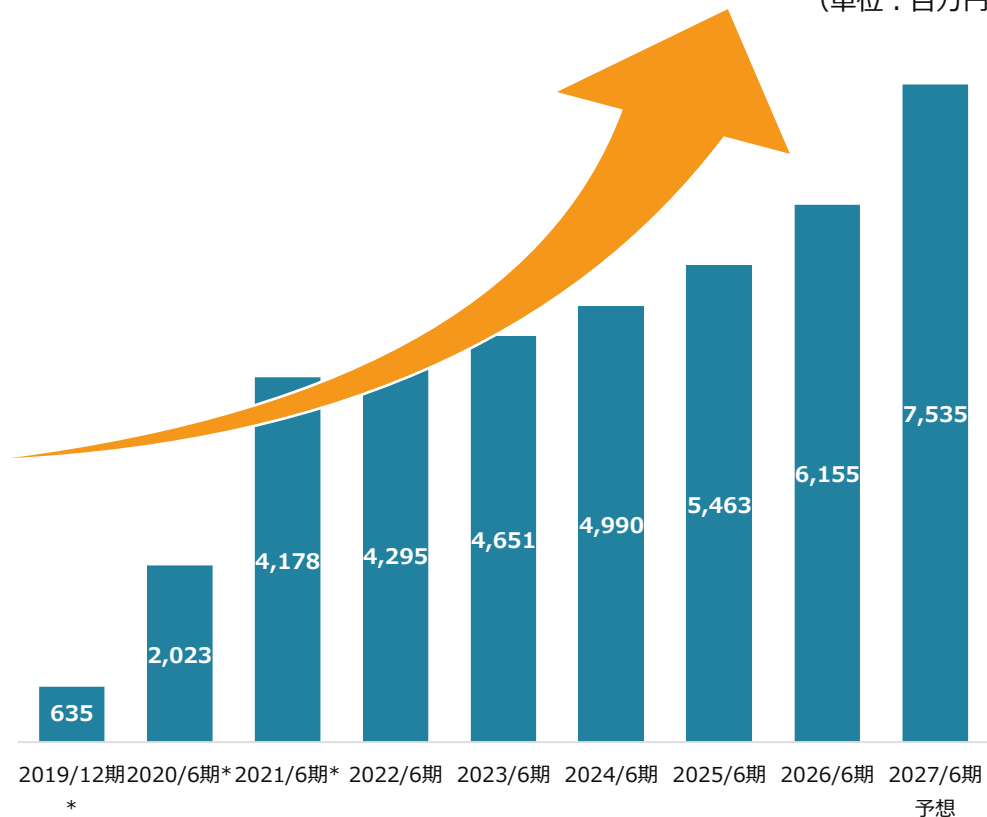
経営指標の推移

- 2019年の設立以降、**7期連続増収増益中、2027年6月期も過去最高売上・最高利益を予想**
- EBITDAマージンは20%超



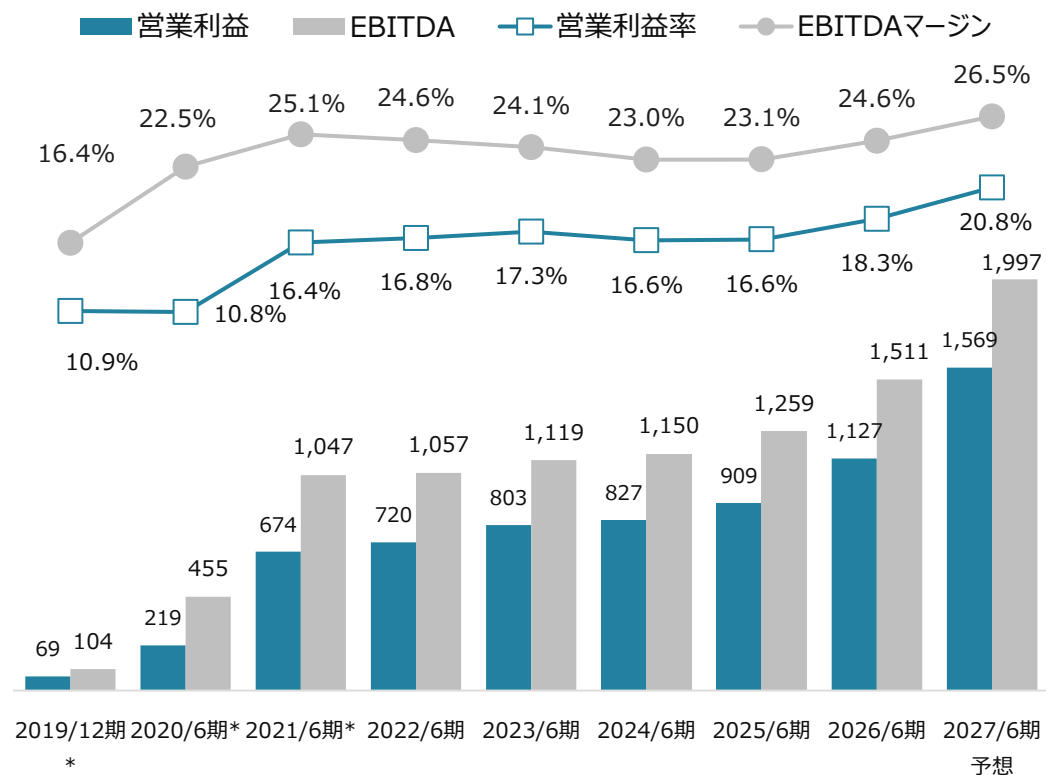
売上高の推移

(単位：百万円)



利益及び利益率の推移

(単位：百万円)



*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

*2019/12期は9ヵ月、2020/6期は6ヵ月の変則決算（2019/12期は、2019/6に動物病院事業取込み、実質的に事業開始） 2021/6期以前は単体決算



当期の当社の取り組み及び翌期業績予想の概要

2



2026年6月期における当社グループの取り組み（One Healthプラットフォームの構築）



- コア事業である動物病院事業を中核としながら、「One Healthプラットフォーム」の構築に向けて戦略的M&Aを推進。
 - 医療衛生機器、バイオマテリアル、CRO・SMO事業をグループ事業に取り込み完了。翌期から本格的に収益の多層化を実現。
 - 獣医療を起点に、ヒトの医療分野、環境課題（人獣共通感染症など）に関連する複数の市場において継続的な事業領域の拡張と新たな収益機会の創出を図る。
- ＜個々の事業集合体ではなく、相互に連携する「プラットフォームバリュー」を企図＞

WOLVES HAND プラットフォームバリュー 価値創造エンジン

One Healthの実現に向けて、動物医療からヒト医療・環境領域へ価値を創出する統合プラットフォーム

当社グループの強み（統合アセット）＝収益の源泉

- 1 動物病院ネットワーク＜臨床インフラ＞
全国の動物病院ネットワーク / 症例蓄積・獣医師の臨床経験
- 2 医療機器事業（飛鳥メディカル）2025年10月連結
調達から販売まで自社完結 / 製造・販売・保守
- 3 衛生環境事業（カルテック）2026年1月連結
光触媒技術の応用/空気清浄（脱臭・防ウイルス）の徹底 / 院内環境改善と健康配慮事業
- 4 バイオマテリアル事業 2026年4月事業開始（移管）
キチンナノファイバーの自社生産・販売 / 再生医療・創薬支援
- 5 先端医療研究開発事業
先端医療技術・創薬・AI医療機器など / 産学連携
- 6 電子カルテシステム
次世代型電子カルテ 開発（AI） / データ統合基盤 / 解析事業
- 7 VMN (Veterinary Medical Network)
獣医師に特化した情報プラットフォーム / 臨床知の集積・教育
- 8 CRO・SMO事業（メディトリックス）2026年7月連結
臨床研究支援・治験モニタリング / データマネジメント・統計解析

新たな収益ドライバーを獲得し、事業化・商業化を推進

研究から価値提供までの一貫した収益化サイクルで、継続的な事業機会を創出



研究 — 治験支援 — 製品化 — 価値提供 の導線を強化
One Healthプラットフォームの事業化力を向上し、収益機会を最大化

One Healthの定義

人の健康、動物の健康、環境の健全性は相互に関連し、影響し合うという考え方。それらを一体的に捉え、相互の健康と持続可能な社会の実現を目指すアプローチ。WOLVES HAND は、動物医療を起点にOne Healthの実現に貢献します。

One Healthが生み出す3つの社会価値（＝持続的な事業機会）

- ① 動物の健康と福祉の向上
 - ・ 高度な獣医療の提供と質の向上
 - ・ 予防医療の推進によるQOL向上
 - ・ 長寿化に向けた継続的ケア
 - ・ 動物と人のより良い共生社会へ
- ② ヒト医療への貢献（知見・データの応用）
 - ・ ペット医療分野のヒト医療へのブリッジング
 - ・ 抗菌・アレルギー・天然由来成分の応用
 - ・ 化粧品・スキンケア市場への展開
- ③ 環境・感染症対策への貢献
 - ・ 感染症の予防・制御に貢献
 - ・ 環境負荷の低減と持続可能性の推進
 - ・ 抗菌素材による循環型社会の実現

動物・ヒト・環境の健康を統合的に守り、
持続可能な社会の実現と新たな市場機会の創出へ

Platform Flywheel（循環効用）による好循環の仕組み

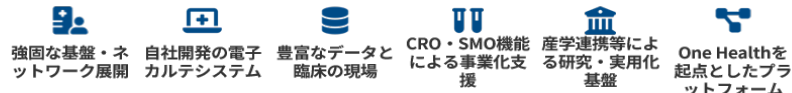
株主・投資家の皆さまへ

- プラットフォーム事業展開により、研究から事業化まで一貫通貫の収益創出モデルをさらに強化し、持続可能な収益機会拡大を目指します。

統合によるシナジーと事業化力の強化で、持続的な成長と収益拡大へ



当社グループの競争優位性＝収益機会の源泉



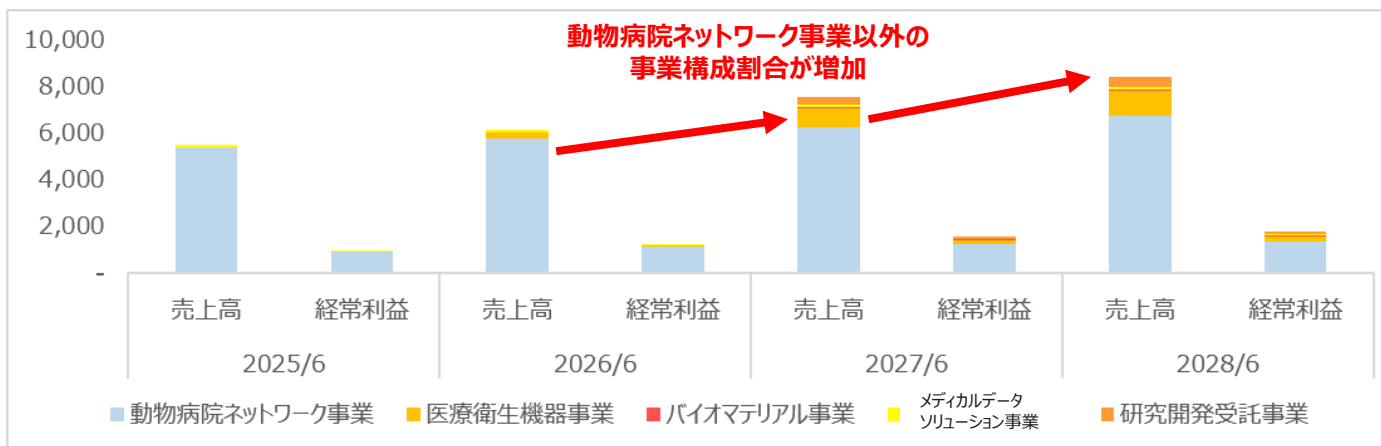
One Healthプラットフォームの事業ポートフォリオの状況



- 2026/6期においてプラットフォームの基盤が整備され、動物病院ネットワーク事業以外の事業基盤を確立。
- 2027/6期以降は動物病院ネットワーク事業以外の事業において継続的な事業領域の拡張と新たな収益機会の創出が行われることで売上・利益の増加を見込む。

事業ポートフォリオ別売上・経常利益の推移

事業区分	2025/6（実績）			2026/6（実績）			2027/6（予測）			2028/6（予測）		
	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率
動物病院ネットワーク事業	5,341	890	16.7%	5,763	1,046	18.1%	6,210	1,215	19.6%	6,742	1,324	19.6%
医療衛生機器事業	-	-	0.0%	268	64	23.8%	800	171	21.4%	1,400	333	23.8%
バイオマテリアル事業	-	-	0.0%	-	-	0.0%	70	40	57.1%	150	86	57.1%
メディカルデータソリューション事業	123	18	14.9%	125	22	17.8%	125	22	17.8%	250	90	36.0%
研究開発受託事業	-	-	0.0%	-	-	0.0%	330	121	36.7%	500	157	31.4%
合計	5,464	909	16.6%	6,156	1,132	18.4%	7,535	1,570	20.8%	9,042	1,989	22.0%



2027年6月期 連結業績予測



- 2027年6月期は売上高+22.4%、営業利益+39.3%、経常利益38.7%の増収増益を見込んでいる
- 各事業の増収分及び確定しているM&Aのみを想定
(新規M&Aや新規開院は実施時期の不確実性があることから予測には織り込まない)
- 継続して経費の削減実施及び利益率が高い動物病院ネットワーク事業以外の事業の規模拡大により営業利益増加を見込む

(単位：百万円)

	2026年6月期	2027年6月期 業績予想	増減額	増減率	主な増減理由
売上高	6,155	7,535	+1,380	+22.4%	新規M&Aや新規開院は実施時期の不確実性があることから予測には織り込まずに、既存事業の増収分及び確定しているM&Aのみを想定。
営業利益	1,127	1,569	+442	+39.3%	継続して経費の削減実施及び利益率が高い動物病院ネットワーク事業以外の事業の規模拡大により営業利益増加を見込む。
経常利益	1,131	1,569	+438	+38.7%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	939	1,005	+66	+7.0%	
EBITDA ※	1,511	1,954	+443	+29.3%	

※EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん償却費



2027年6月期に剰余金の配当（初配）を実施予定

▶ 配当開始理由

- 2024年6月の上場以後増収増益により、安定的な利益とキャッシュ・フローを獲得できており、自己資本比率についても50%を超え健全な財務基盤を確保できる体制が整備されたこと
- 上記に加えて、2026年6月期において医療衛生機器事業等の動物病院ネットワーク以外の事業基盤の整備が進捗し、One Healthプラットフォームの構築により来期以降に継続的な多層化収益の実現が見込まれることから、企業価値向上を目指した成長投資を行いつつ株主の皆様への安定的・継続的な利益還元の実施が可能となったと判断

▶ 配当方針

- 2027年6月期から継続的に配当実施を予定
- 配当性向は20%を基準とし、M&A等の成長投資資金とのバランスを図って決定

配当性向
20%
を基準

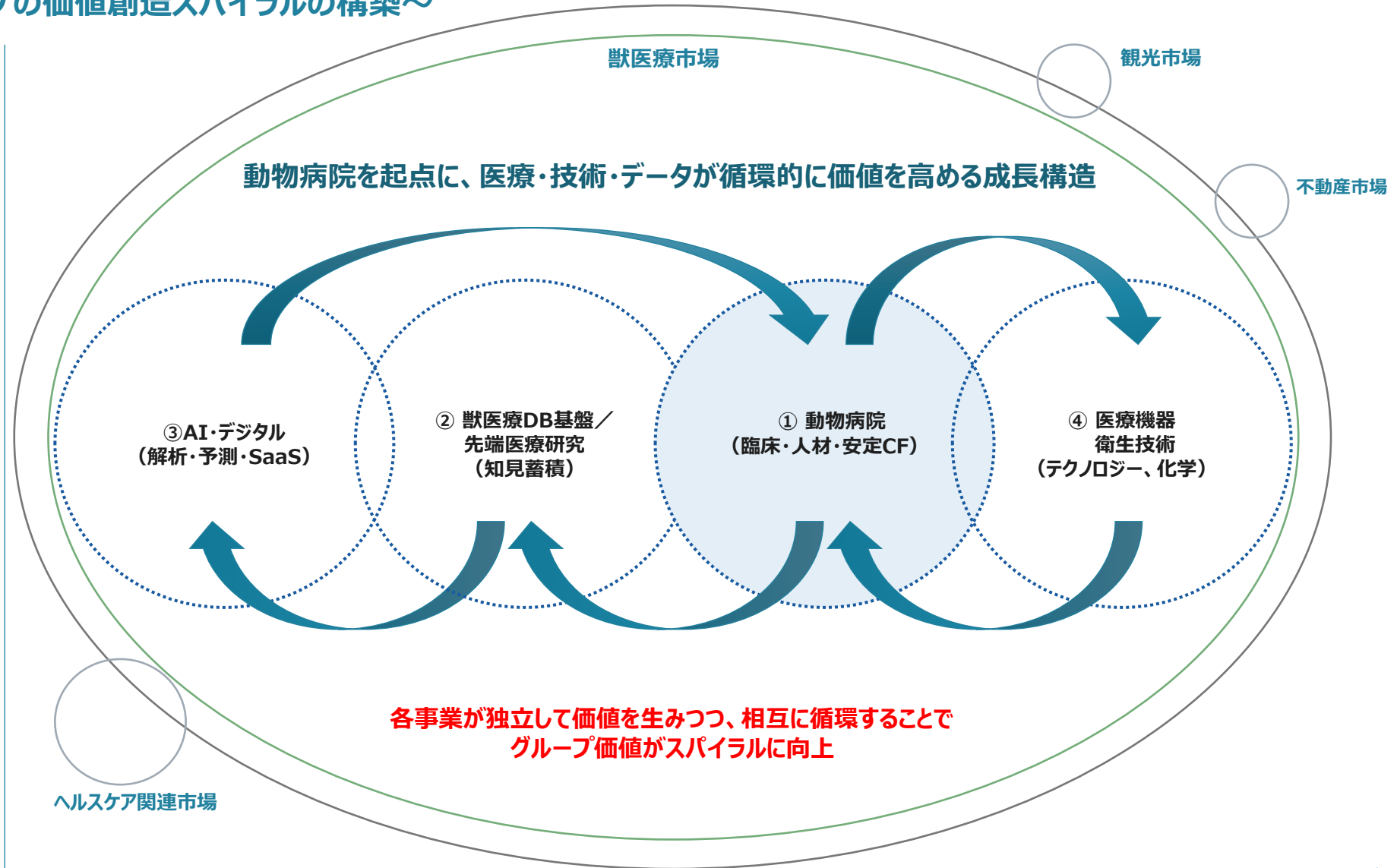
今後の戦略

プラットフォームバリューの進化

～WOLVES HANDグループの価値創造スパイラルの構築～



- 動物病院事業で蓄積される臨床知見を基盤し、医療機器、衛星・環境技術、AI・デジタル、研究開発領域を連動させ、中長期的な企業価値向上を図る。





各事業の概況

3





I

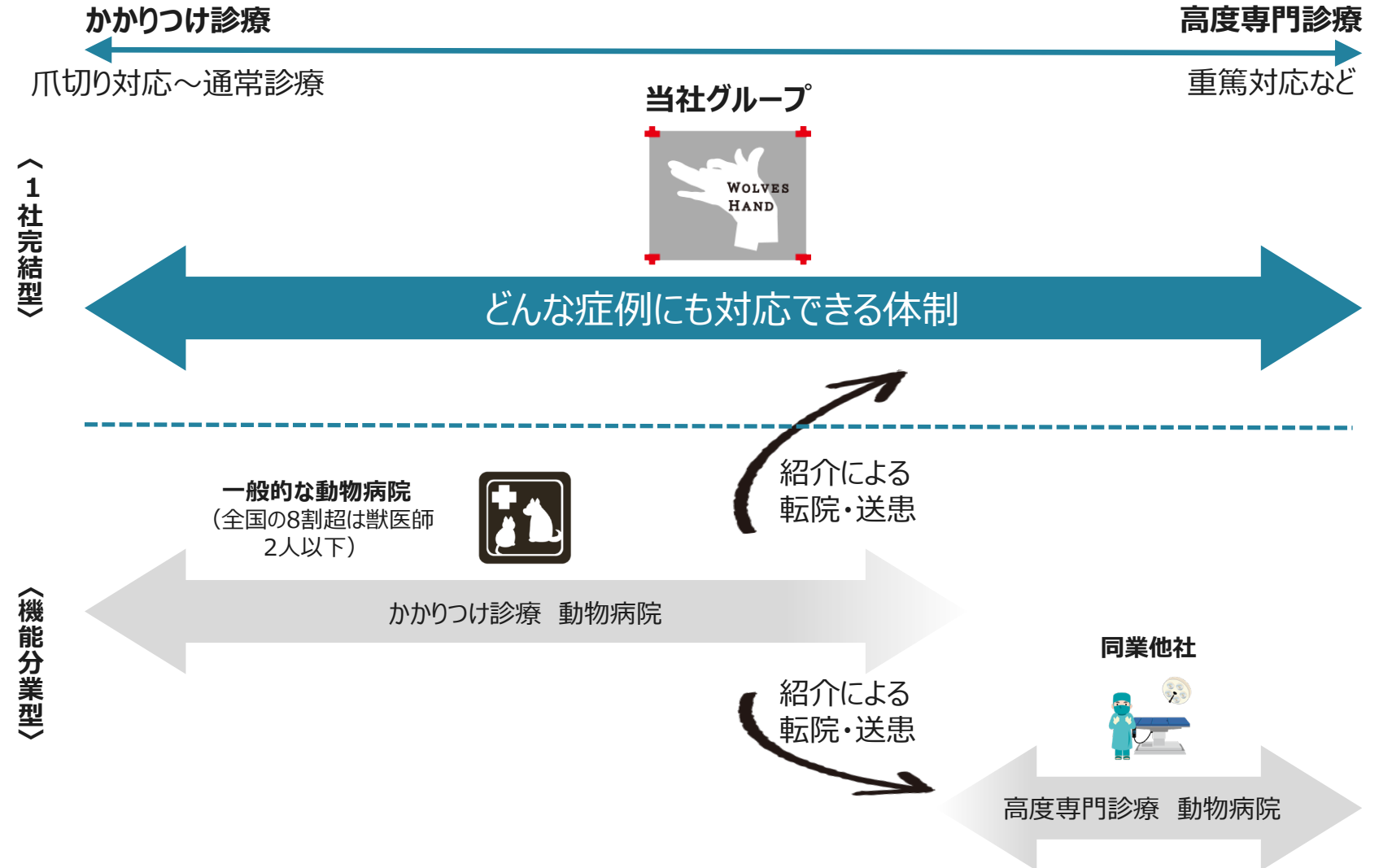
動物病院ネットワーク事業



動物医療一貫体制

通常診療から高度診療まで対応できる一社完結型の動物病院は業界では少数派と認識

- 一般的な動物病院は機能分業型が主流。かかりつけ診療と高度診療は別病院対応となっており、高度診療は紹介で受入れ
- 一方、当社はかかりつけ診療から高度専門診療まで一社で完結。外来・紹介双方にも対応できる一社完結型の動物病院は業界では少数派と認識





若手獣医師の育成システム

診療機会提供、技術継承、人事適正化などにより、早期戦力化システムとしてパターン化

- 当社の強みを持続させるには若手獣医師の実力育成は最重要課題
- 診療機会の提供、技術継承、人事適正化などにより、若手の向上意欲に訴求。早期戦力化システムとしてパターン化
- こうした若手獣医師の育成の仕組みがベテランに頼らず、新卒採用でのカバーを実現するカギに

経営の最重要方針

若手獣医師の実力育成



1

一貫体制に伴う豊富な診療機会の提供

あらゆる症例への対応を実践
それらを通じ、経験値を着実に積上げ

2

ベテラン医師からの技術継承機会の提供

臨床を通じて技術と知識を継承
当社病院は1拠点当たり約3人の獣医師を配置
複数の獣医師チームにより、若手が相談できる体制を構築

3

やる気に応じた人事登用システムの適用

マネジメント志向、職人志向など、各人の志向に応じ、
選択肢を提供
入社3～5年で病院長に抜擢も

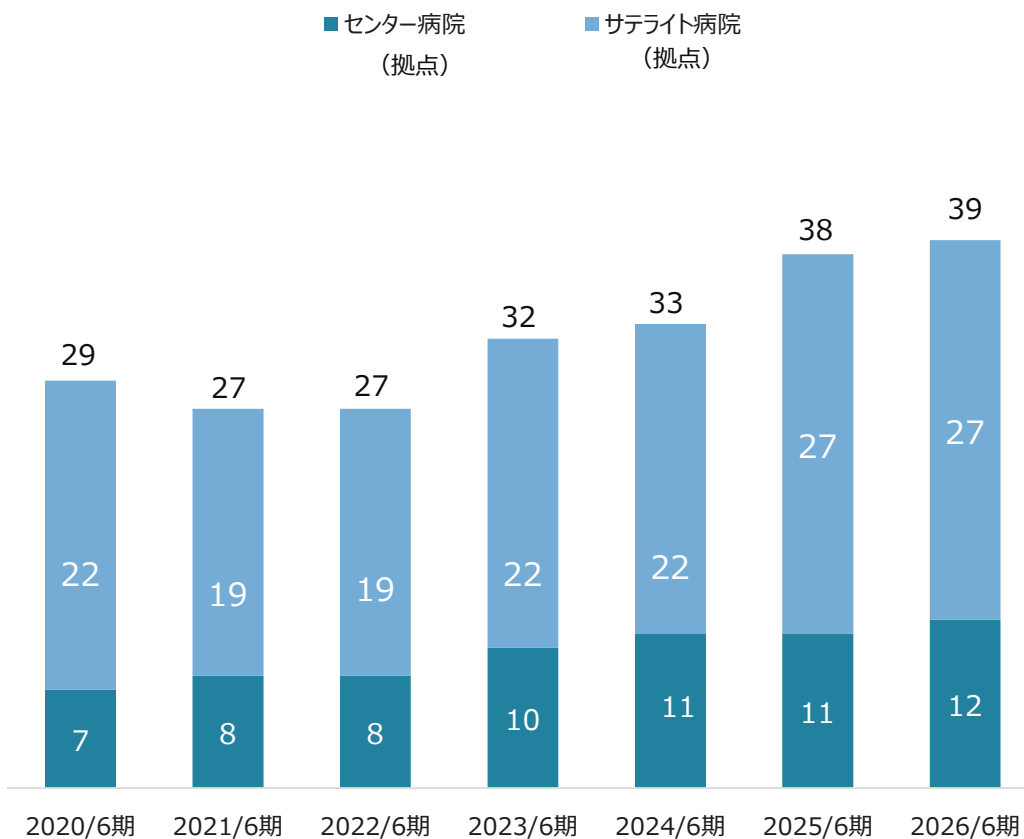
若手獣医師の早期戦力化を実現

動物病院数、診療件数&診療単価の推移

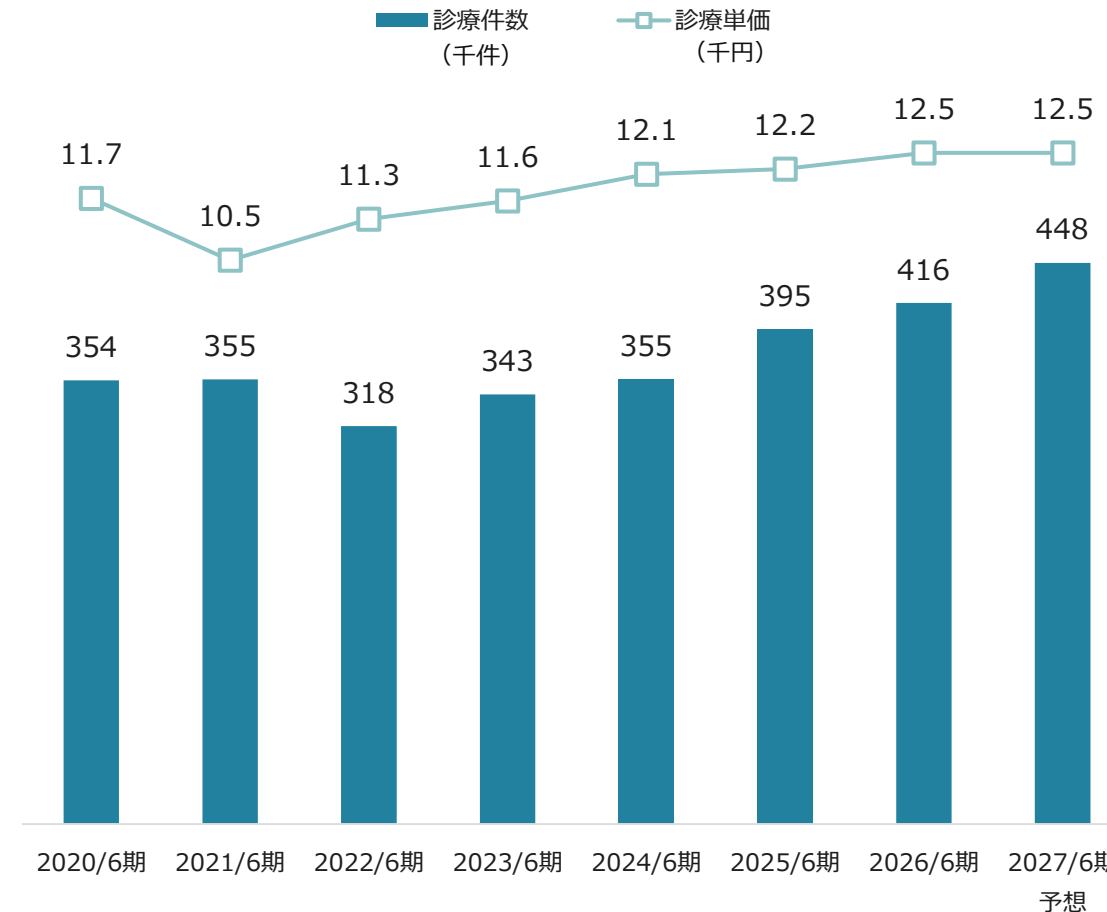


- 動物病院数は2026年6月末時点で39病院
- 診療件数は2022/6期以降増加中

動物病院数の推移



診療件数の推移



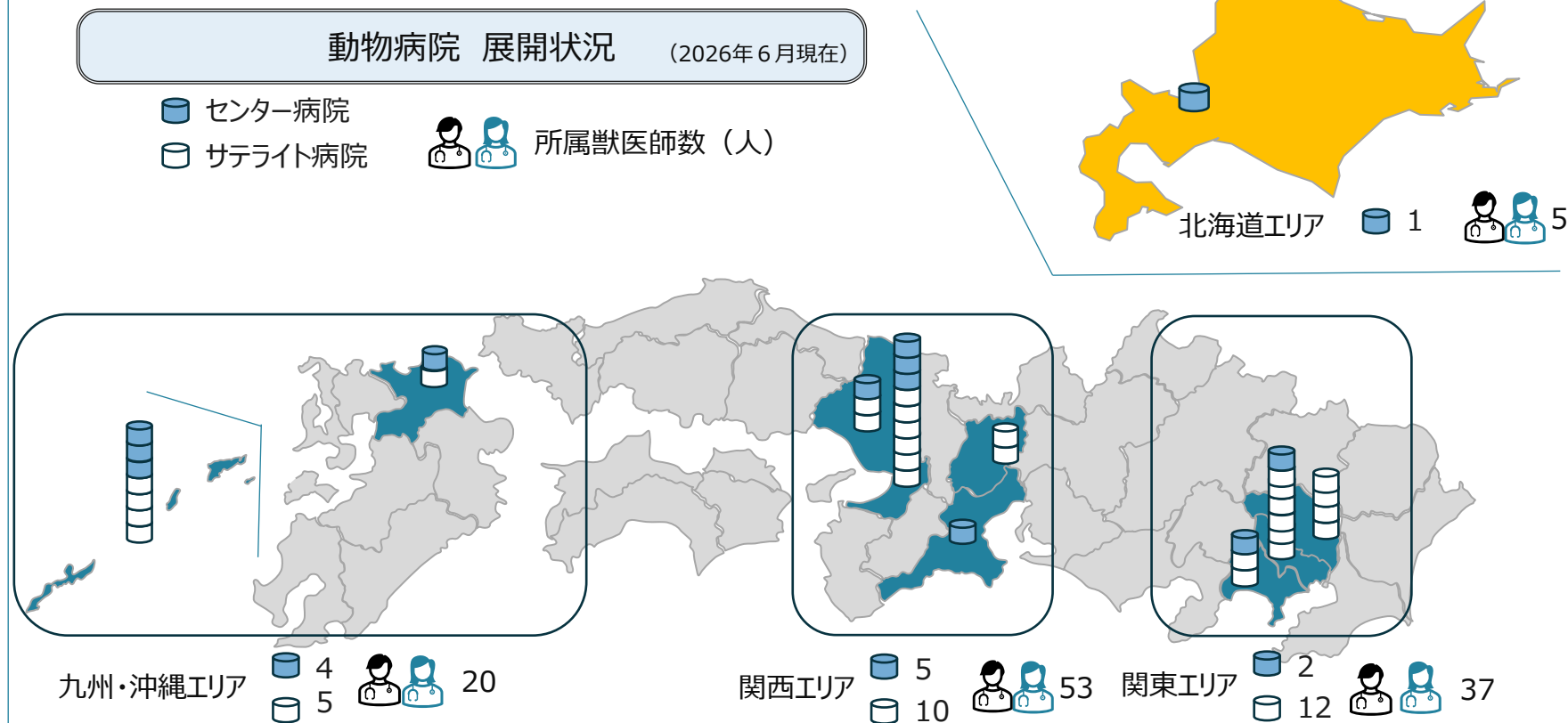
*2020/6期は6ヵ月の変則決算

動物病院の地域展開と事業承継

関西をベースに関東・九州・沖縄・北海道に展開



- 大阪、兵庫、滋賀、三重、東京、埼玉、神奈川、沖縄、福岡、北海道の1都1道1府7県に展開
- 2026年6月期は未進出だった北海道にセンター病院をM&Aにより取得してエリア拡大
- 当初5拠点病院でスタート。その後、事業承継M&Aを中心に事業拠点を拡大
- 事業承継に至る背景は、病院経営のテコ入れや後継者育成、実質的な事業再生など様々なパターンが存在



- | | |
|------------------|------|
| ● 2019年事業スタート時 | 5拠点 |
| ● その後の自社開業 (純数*) | 5拠点 |
| ● 事業承継 | 21拠点 |
| 合計 | 39拠点 |

*2拠点閉鎖後。したがって、事業承継分の閉鎖2拠点と合わせ合計4拠点を閉鎖



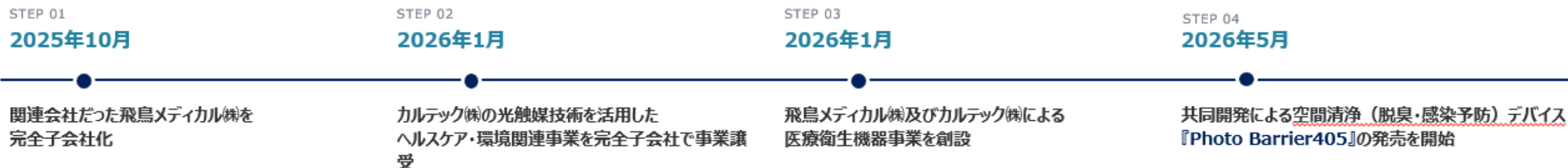
Ⅱ

医療衛生機器事業



- 2026年6月期において、関連会社の飛鳥メディカル(株)を完全子会社化するとともに、カルテック(株)の光触媒技術を活用したヘルスケア・環境関連事業を完全子会社で事業譲受により事業体制の基盤を確立。

1.2026年6月期の動向

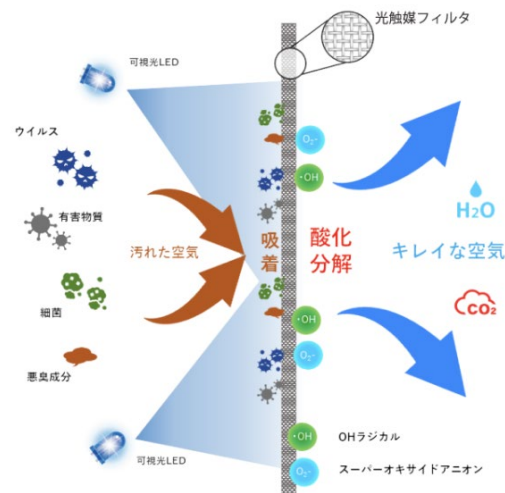


2.各社の特性

カルテック(株)



- 光触媒技術を活用したヘルスケア・環境関連製品の研究開発、製造および販売を行っており、国立大学や研究機関等との共同研究を通じて、当該分野における高度な技術的知見および開発実績を有している。
- 光触媒技術は、動物医療分野にとどまらず、「空気」「水」「環境」「鮮度保持」「美容」等の周辺領域においても幅広い応用が期待されており、今後の社会的ニーズの拡大が見込まれる分野



飛鳥メディカル(株)



- 設立以降25年来治療用レーザー医療用機械器具の開発・製造・販売を主たる事業として行っており、特に獣医療分野において確固たる地位を確立するとともに、動物病院との幅広いネットワークを保有
- 主要製品は出力20Wの半導体レーザーが高い操作性とコストパフォーマンスを実現したD-Lase V 20 Plus。



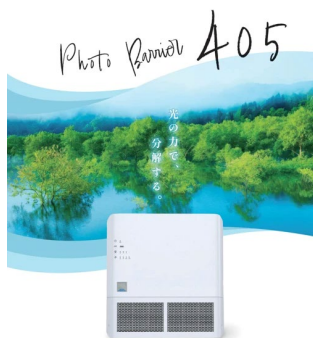


- 今後の取り組みとしてPhoto Barrier405等のデバイス販売を強化するとともに、光触媒技術・医療用レーザー技術を活用した環境・医療における課題解決を推進

3.今後の動向・取り組み

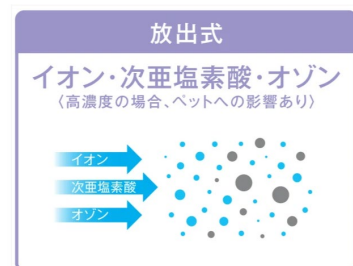
①「Photo Barrier405」の販売開始

- 飛鳥メディカル(株)、カルテック(株)、当社所属の獣医師のグループ内共同開発により空間の環境維持と衛生管理をサポートする空間清浄デバイスの発売を2026/5月より開始
- 飛鳥メディカルが創業以来 25 年にわたり培ってきた医療用レーザー技術、そして、カルテックが特許を有する高度な光触媒技術（UV [紫外線] とは違う光の波長（可視光「405nm」）を使用）を融合した“光のシナジー”として獣医療現場の課題（臭気対策・院内感染予防）解決を図る。

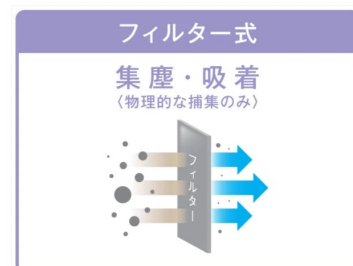


【一般的な空気清浄機等】

一般的な空気清浄機・脱臭機の場合

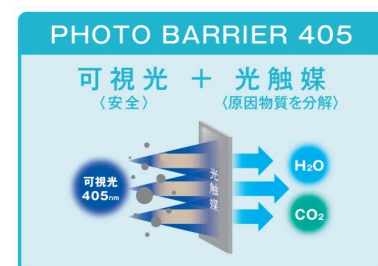


一般的な空気清浄機・脱臭機の場合

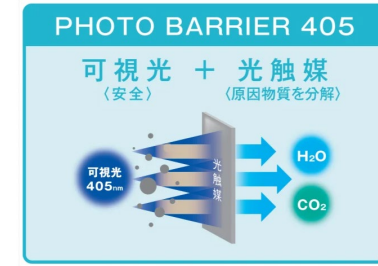


【Photo Barrier】

PhotoBarrierの場合

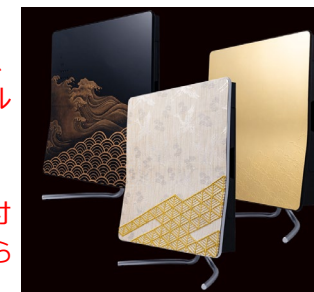


PhotoBarrierの場合



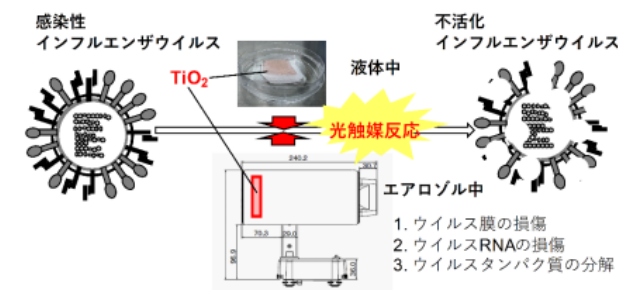
②除菌脱臭機のクラフトモデルの販売開始

- カルテック(株)の主力製品である壁掛けタイプの除菌脱臭機に、伝統工芸会社と提携し、デザインを掛け合わせたクラフトモデルの販売を今後予定。
- 光触媒が有する高度な脱臭・除菌機能に高いデザイン性を付加することでインテリアとしての機能を強化し、高級感が求められる空間・施設への導入を強化。



③鳥インフルエンザウイルスの不活性化効能の社会実装化に向けて

- 過去、東京大学 × 宮崎大学 × カルテック(株) の共同研究において酸化チタン型光触媒技術による高病原性鳥インフルエンザウイルス及び季節性インフルエンザウイルスの不活化を証明
- 進行期（2027年6月期）、当該技術を活用して感染症対策に対する社会実装化のための実証研究を推進予定。



光触媒によるインフルエンザウイルスの不活性化



Ⅲ

バイオマテリアル事業



- 2026年6月期において(株)マリンナノファイバーより「キチンナノファイバー事業」を承継。
- 同事業については自治体及び鳥取大学等と産官学で連携しながら鳥取県で引き続き事業拡大を図っていく。

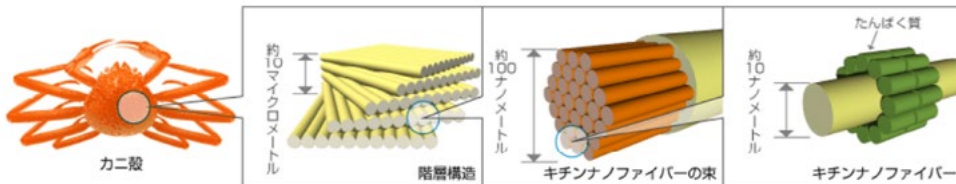
1.2026年6月期の動向

2026/4月にキチンナノファイバー事業を承継

- 従前よりキチンナノファイバーが有する高い創傷治癒促進効果に着目して、当社の獣医先端医療研究所にてCHEMIPAZ(株)子会社の(株)マリンナノファイバー社と共同研究を実施。
- 2026/4月に(株)マリンナノファイバーから「キチンナノファイバー」事業の一部である動物用医療製品および原材料供給事業を承継し、キチンナノファイバーに関する知的財産、研究開発資産、製造販売機、在庫資産および一部人材を引き継ぎ。

2.キチンナノファイバーの特性

- キチンは、カニやエビの外殻に含まれる天然由来の多糖類です。高い生体適合性を有し、**創傷や熱傷（やけど）の治癒を促進する優れた特性**を持つことから、古くより医療分野で活用されてきた。
- キチンナノファイバーは、このキチンをナノレベルまで微細化した新素材です。ナノ化することでキチン本来の特性がより発揮され、創傷治癒促進効果の向上が期待されている。
- 当社研究でも、キチンナノファイバーを用いた創傷治療について、犬3頭・猫5頭（計8頭）の難治性創傷に対する小動物臨床研究で全例完治を確認。



3.今後の動向・トピック

①鳥取ファクトリーの再稼働に伴う「キチンナノファイバー」事業の受注開始

- 事業承継後、鳥取市内にWOLVES HAND獣医先端医療研究所の鳥取オフィスおよび鳥取ファクトリーを開設
- 2026/7月よりWOLVES HANDの獣医先端医療研究所としてのキチンナノファイバー製品「カイトベール」、および、同原料の製造販売を開始

②鳥取県における事業拡大

- バイオマテリアル事業においては鳥取ファクトリーを置く鳥取県や、獣医先端医療研究所岡本所長が元教授を務めていた鳥取大学等と産官学で連携しながら事業規模を引き続き拡大していく。
- 2026年7月22日の鳥取県知事の記者会見でも当社のキチンナノファイバーに関する取り組みについて紹介されており、自治体として支援することについても言及があった。

【2026/7/22 鳥取県知事記者会見コメント（抜粋）】

「株式会社WOLVES HANDが鳥取県内に獣医先端医療研究開発拠点『鳥取ファクトリー』を新設されることを歓迎します。鳥取県がこれまで取り組んできたカニ殻由来のキチン・キトサンや、鳥取大学で研究が進められてきたキチンナノファイバーの技術を継承・発展させ、ペット向け治療への応用を目指す取り組みとして期待しています。県としても、研究開発拠点設置支援補助金を通じて、本事業を支援してまいります。」



Ⅲ

メディカルデータソリューション事業



- 2025/11月に株式会社ダイナコムとヘルスケア・医療データの利活用を進める共同研究契約を締結。
- 当社システムのわん太郎・VMNとダイナコムの知見を融合させて獣医療DBの高度利用のビジネス開発を推進。

1.2026年6月期の動向

2025/11月に株式会社ダイナコムと獣医療データベースを活用したヘルスケア・医療データの利活用を進める共同研究契約を締結

- 2025/11月にダイナコムの保有する医療データの解析技術や知見と、当社が保有する獣医療の臨床DBを活用し当社の電子カルテ(わん太郎)由来のデータの現状分析と解析ビジネスの検討を開始
- 2026/3月に電子カルテ由来のデータの現状分析、次世代電子カルテシステムのクラウド化の発展的課題抽出、および、臨床支援 AI の導入プロセスの情報工学的な基礎研究方針の立案が概ね完了。
- 2027年6月完成に向けた要件定義フェーズ進行中。

【(株)ダイナコム概要】

所在地：千葉県千葉市美浜区

設立：1995年1月

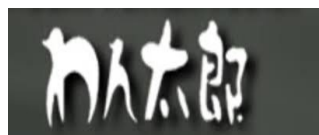
資本金：70百万円

ダイナコムは、バイオインフォマティクス専門企業としてデータ解析とシステム開発を行っている。特にゲノム解析やヒトの医療分野において数多くの実績を積み重ねており、先進的な技術と豊富な経験を活かし、医療現場のニーズに応じたソリューションを提供している。



2.今後の動向

- 当社が保有する電子カルテシステム（わん太郎）由来のデータの解析を通じて、**がん・心疾患・腎臓疾患リスクの予測や治療効果分析サービスの提供、獣医療の現場支援の AI 導入など、獣医療DBの高度利用のビジネス開発**をダイナコムと共同で目指す。
- 当社が運営する獣医療関係者向け教育支援サービスであるVMN（Veterinary Medical Network）における学術的情報も統合することでより高度機能化を図る。





IV

研究開発受託事業



- CRO・SMO事業を行うメディトリックス社を完全子会社化。
- 市川康明博士を獣医先端医療研究所の共同代表として招聘し、体制の強化を実施。

1.2026年6月期の動向

①CRO・SMO事業を行う株式会社メディトリックスを完全子会社化（2026/7/1付）



- メディトリックスは医療・ヘルスケア領域においてCRO（Contract Research Organization：開発業務受託機関）及び SMO（Site Management Organization：治験施設支援機関）事業を展開しており、臨床研究支援、治験運営、データマネジメント等に関する豊富なノウハウを有している。
- **メディトリックスのグループ参画により、当社グループは、研究テーマの創出から研究開発、臨床研究、治験、製品化及び社会実装に至るまでのバリューチェーンを強化し、グループ内で一気通貫して推進できる体制の構築が可能となり、One Healthプラットフォームの基盤が確立。**

②動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究が「学会長賞」を受賞

- **2025年11月9日、東京都内で開催された「第68回比較統合医療学会学術大会」において、当社は「犬羊膜由来幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジングに対する効果」に関する研究成果を発表し、栄誉ある学会長賞を受賞**



③獣医先端医療研究所の体制強化

- 放射線物理学・数理物理学・医療工学分野において国内外で豊富な研究実績を有する**市川康明博士を、当社「獣医先端医療研究所」の共同代表として招聘。**
- 市川博士は、工学と医療を融合する研究開発を牽引し、名古屋大学及び岡山大学において長年にわたり数理物理学・放射線物理学・放射線医学を専門としており、ホウ素
- 薬剤を取り込んだがん細胞のみをピンポイントで殺傷するホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の技術開発等に深い知見を有している。

2.今後の動向

- 研究開発活動に関して、現状進行中のものも含め外部企業と連携をしながら継続して推進。
- メディトリックスの知見を活用して、**日本発の本格的な動物医療版のCRO・SMO事業の確立を推進。**

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

【お問合せ先】
株式会社WOLVES HAND 経営管理本部

電話 : 06-6599-9106
Mail : info@wolveshand.jp